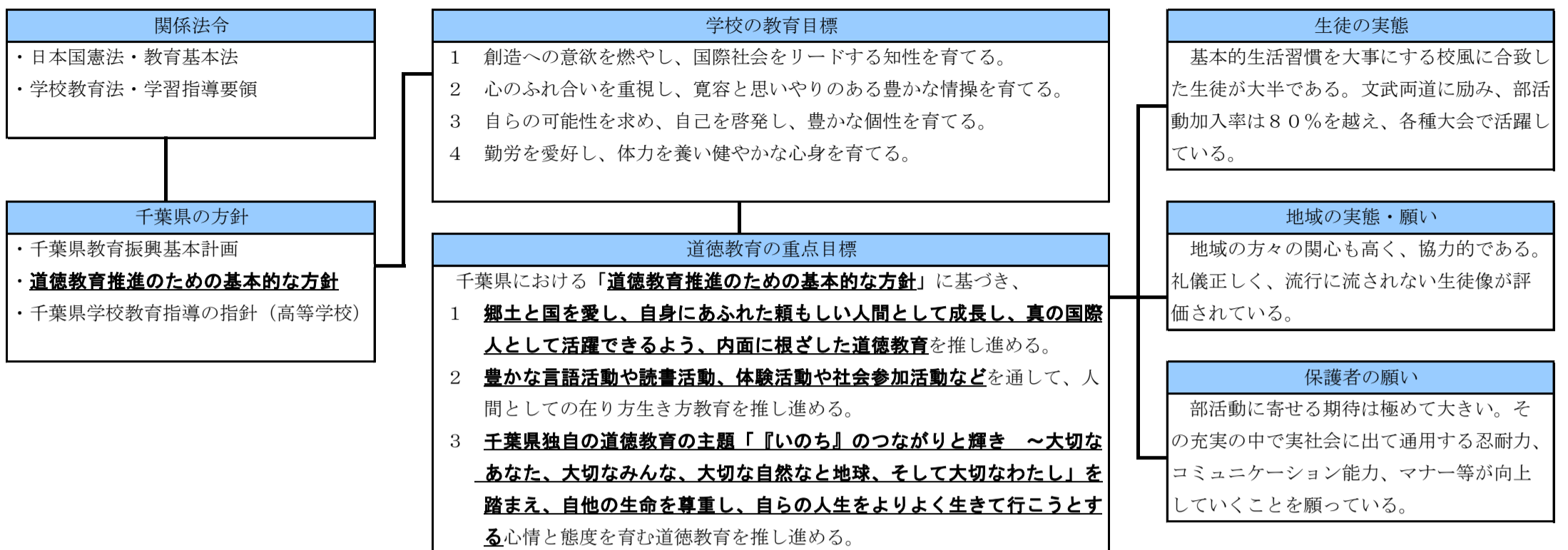


高等学校の取組

<参考> 道徳教育全体計画（例）（高等学校）



言語活動・読書活動の充実 道徳の時間はもとより、教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動などすべての教育活動を通して、より深く考え自己を表現し、他者と繋がるよ言語活動を充実させる。また、言語活動の基盤となる読書活動の充実と推進に努める。	体験活動・社会参加活動の充実 人や社会、自然などの豊かな関わりの中で、様々な体験を通して、道徳性と道徳的実践力が身に付くよう、総合的な学習の時間や特別活動の中で体験活動や社会貢献活動等を充実させる。
--	---

各教科・科目 <table border="1"> <tr><td>国語</td><td>「言葉」「日本語」についてのこだわりを持ち、常に正しい言葉遣いが心を育てることを意識し、国語を尊重する態度を育てる。</td></tr> <tr><td>地理</td><td>平和的な国家及び社会の有為な形成者として、必要な能力を養うために、歴史や他国についての知識理解を深める。</td></tr> <tr><td>公民</td><td>現代社会を主体的に考察することで人間としての在り方や生き方を考えさせ、国家や社会の一員としての自覚を持たせる。</td></tr> <tr><td>数学</td><td>基礎基本を通して、数学的思考力を身に付け、それらを多くの場所で積極的に活用する態度を育てる。</td></tr> <tr><td>理科</td><td>自然を愛護し、自然の美しさに感動する豊かな心を育てる。また、科学的な見方、考え方を修得させ生活の中で生かす態度を育成する。</td></tr> <tr><td>保健</td><td>健康な肉体と健康な精神の育成に努め、明るく爽やかで前向きな人材の育成を図る。生涯スポーツに向けて運動能力を高めると共に、競技を通して協力性を養う。</td></tr> <tr><td>芸術</td><td>芸術に触れ、理解する中で、人間の持つ才能の素晴らしさを体感し、豊かな情操を養う。また個性を尊重する精神を育てる。</td></tr> <tr><td>外国語</td><td>他国の言語や文化への関心を深め、視野を広げる中で異文化を尊重する態度を育て、積極的にコミュニケーションをとろうとする人材を育成する。</td></tr> <tr><td>家庭</td><td>現代社会で重要性が再認識されている家庭の重要性について深く理解し、社会と家庭と個々の役割や生き方を実践的に理解する。</td></tr> <tr><td>情報</td><td>急速に発達する情報化社会の中で通用する基礎的な知識技術を身に付けるとともに、人間として情報機器に振り回されず、有用に活用する姿勢を育てる。</td></tr> </table>	国語	「言葉」「日本語」についてのこだわりを持ち、常に正しい言葉遣いが心を育てることを意識し、国語を尊重する態度を育てる。	地理	平和的な国家及び社会の有為な形成者として、必要な能力を養うために、歴史や他国についての知識理解を深める。	公民	現代社会を主体的に考察することで人間としての在り方や生き方を考えさせ、国家や社会の一員としての自覚を持たせる。	数学	基礎基本を通して、数学的思考力を身に付け、それらを多くの場所で積極的に活用する態度を育てる。	理科	自然を愛護し、自然の美しさに感動する豊かな心を育てる。また、科学的な見方、考え方を修得させ生活の中で生かす態度を育成する。	保健	健康な肉体と健康な精神の育成に努め、明るく爽やかで前向きな人材の育成を図る。生涯スポーツに向けて運動能力を高めると共に、競技を通して協力性を養う。	芸術	芸術に触れ、理解する中で、人間の持つ才能の素晴らしさを体感し、豊かな情操を養う。また個性を尊重する精神を育てる。	外国語	他国の言語や文化への関心を深め、視野を広げる中で異文化を尊重する態度を育て、積極的にコミュニケーションをとろうとする人材を育成する。	家庭	現代社会で重要性が再認識されている家庭の重要性について深く理解し、社会と家庭と個々の役割や生き方を実践的に理解する。	情報	急速に発達する情報化社会の中で通用する基礎的な知識技術を身に付けるとともに、人間として情報機器に振り回されず、有用に活用する姿勢を育てる。	各学年ごとの重点目標 <table border="1"> <tr><td>第1学年</td><td>オリエンテーションや入学直後の2泊3日の宿泊研修を通して、「挨拶・時間厳守・環境整備」の本校の3本柱の重要性を生徒に認識させ、日々の学校生活の中で厳しく指導する。高校生活を規律正しく過ごすことが有意義な高校生活に繋がることを個々や集団が理解し、行事等を通して、協調性を養う。</td></tr> <tr><td>第2学年</td><td>中堅学年として、学校の中核として諸活動に携わる中で、3本柱を遵守することが当たり前となった中から、自主性を育て、個々や集団としてリーダー性を多くの場で発揮させる。先輩と後輩双方に配慮し、学校として全学年がしっかり機能できるように役割を果たせるよう指導する。</td></tr> <tr><td>第3学年</td><td>進路決定の一年として、個々の特性に合わせ進路を決定していく。社会人としての基礎基本のマナー、モラルとして徹底された本校の3本柱を将来にわたって生かしていくと同時に、高校生活で学んだ他者との協調や、国家や郷土の敬愛の念や平和を愛する心、自然への畏敬の念を育て、卒業に備える。</td></tr> </table>	第1学年	オリエンテーションや入学直後の2泊3日の宿泊研修を通して、「挨拶・時間厳守・環境整備」の本校の3本柱の重要性を生徒に認識させ、日々の学校生活の中で厳しく指導する。高校生活を規律正しく過ごすことが有意義な高校生活に繋がることを個々や集団が理解し、行事等を通して、協調性を養う。	第2学年	中堅学年として、学校の中核として諸活動に携わる中で、3本柱を遵守することが当たり前となった中から、自主性を育て、個々や集団としてリーダー性を多くの場で発揮させる。先輩と後輩双方に配慮し、学校として全学年がしっかり機能できるように役割を果たせるよう指導する。	第3学年	進路決定の一年として、個々の特性に合わせ進路を決定していく。社会人としての基礎基本のマナー、モラルとして徹底された本校の3本柱を将来にわたって生かしていくと同時に、高校生活で学んだ他者との協調や、国家や郷土の敬愛の念や平和を愛する心、自然への畏敬の念を育て、卒業に備える。	総合的な学習の時間 《第1学年》 ・情報収集、活用、分析能力を育成する。 ・プレゼンテーション能力を育成する。 《第2学年》 ・自国の歴史に対する確かな認識を育てる。 ・豊かな体験活動を通して確かなものの見方を育てる。 ・国際社会に生きる日本人としての自覚を促す。 《第3学年》 ・人間としての在り方生き方について深く考えさせる。 ・将来にわたって就くべき職業について考えさせる。
国語	「言葉」「日本語」についてのこだわりを持ち、常に正しい言葉遣いが心を育てることを意識し、国語を尊重する態度を育てる。																											
地理	平和的な国家及び社会の有為な形成者として、必要な能力を養うために、歴史や他国についての知識理解を深める。																											
公民	現代社会を主体的に考察することで人間としての在り方や生き方を考えさせ、国家や社会の一員としての自覚を持たせる。																											
数学	基礎基本を通して、数学的思考力を身に付け、それらを多くの場所で積極的に活用する態度を育てる。																											
理科	自然を愛護し、自然の美しさに感動する豊かな心を育てる。また、科学的な見方、考え方を修得させ生活の中で生かす態度を育成する。																											
保健	健康な肉体と健康な精神の育成に努め、明るく爽やかで前向きな人材の育成を図る。生涯スポーツに向けて運動能力を高めると共に、競技を通して協力性を養う。																											
芸術	芸術に触れ、理解する中で、人間の持つ才能の素晴らしさを体感し、豊かな情操を養う。また個性を尊重する精神を育てる。																											
外国語	他国の言語や文化への関心を深め、視野を広げる中で異文化を尊重する態度を育て、積極的にコミュニケーションをとろうとする人材を育成する。																											
家庭	現代社会で重要性が再認識されている家庭の重要性について深く理解し、社会と家庭と個々の役割や生き方を実践的に理解する。																											
情報	急速に発達する情報化社会の中で通用する基礎的な知識技術を身に付けるとともに、人間として情報機器に振り回されず、有用に活用する姿勢を育てる。																											
第1学年	オリエンテーションや入学直後の2泊3日の宿泊研修を通して、「挨拶・時間厳守・環境整備」の本校の3本柱の重要性を生徒に認識させ、日々の学校生活の中で厳しく指導する。高校生活を規律正しく過ごすことが有意義な高校生活に繋がることを個々や集団が理解し、行事等を通して、協調性を養う。																											
第2学年	中堅学年として、学校の中核として諸活動に携わる中で、3本柱を遵守することが当たり前となった中から、自主性を育て、個々や集団としてリーダー性を多くの場で発揮させる。先輩と後輩双方に配慮し、学校として全学年がしっかり機能できるように役割を果たせるよう指導する。																											
第3学年	進路決定の一年として、個々の特性に合わせ進路を決定していく。社会人としての基礎基本のマナー、モラルとして徹底された本校の3本柱を将来にわたって生かしていくと同時に、高校生活で学んだ他者との協調や、国家や郷土の敬愛の念や平和を愛する心、自然への畏敬の念を育て、卒業に備える。																											
	生徒指導 生徒理解を基本にし、生徒指導を実施する。ただし、基本的な生活習慣については、校則やマナーの面を含め、集団が心地よく充実した生活を送れるように徹底した指導を行う。	特別活動 学校行事においては、儀式的な行事については、有意義な変化や折り返しを付け、厳粛で清新な気分を味わわせ、学校生活の諸処の動機づけとする。また、旅行的行事は見聞を広め、自然文化に親しむとともに、集団生活や公共道徳について学ぶ。体育・学芸的行事については自主性と協力性、学習の成果を生かすこととする。生徒会活動やLHRを生かした学級活動においては集団や社会の一員としての自覚を深めさせる。																										
	キャリア教育 1年生から進路指導部と学年がタイアップして、各種の講演会等を実施するとともに、LHRでも各学級でも時期に応じた指導を実施する。卒業生を囲む会は企業・専門学校・短大・大学等の実態を聞き、「上級学校説明会」では大学・専門学校の先生方の話を実際に聞く。各種のガイダンスも進路指導部の主催で放課後に実施する。	部活動 勝利至上主義に陥ることなく、顧問教師の適切な指導により、自主的な生徒の意欲を生かし、社会性を錬磨する場として捉える。それぞれの専門性の中で、創意工夫した活動を実施し、強い意志力を育て、礼節の意義を理解し、温かい人間愛の精神を深め、他者への感謝と思いやりの心を持たせる。 また、目標の実現のために困難に立ち向かう強い意志力、たゆまない継続力を育む。																										
	家庭・地域との連携 地域奉仕日を実施し、学校周辺や川沿い土手などの清掃活動を行うことは地域からも評価されている。また、自転車通学が8割いる本校の特性から生徒指導部を中心に地域の方や保護者と協力して交通安全指導を毎日実施している。保護者会と総務部の連携も密に行っている。																											

協働的な活動を取り入れた授業例

高等学校 指導案

(1) 主題名

「支え合う喜び」(他者に対する敬愛と助け合いの精神をもち実践する)

(2) 教材名

「涼風」(出典「明日への扉Ⅱ」千葉県教育委員会)

(3) 「考え、議論する道徳」の授業としての工夫

ワークシートを工夫し、様々な視点で自らの生活を振り返るようにする。グループでの協働学習を通して、自分の経験や考えを主体的に出し合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする学習形態を作る。仲間の意見を聞き、多面的・多角的な視点で考察し、「思いやり」の意味や影響について考えられるようにする。これまで意識してこなかった行為を意識化することで、より主体的に生活を充実させていこうとする態度を養う。

一人一人の個人の生活レベルから考え、学校生活、社会全体まで視野を広げていくことで、他者を尊重する精神・社会連帯の精神を持ち、実践力を高められるようにする。

(4) 主題設定の理由

本主題は『支え合う喜び』—他者に対する敬愛と助け合いの精神をもち実践する—である。現代社会において、SNS上では他者に気遣うこともなく自分本位の発言をする、実生活では「自分さえよければいい」という発想が行動の基本となってしまう傾向がある。そのような自分本位の考えや行動は、集団生活では人間関係のトラブルの原因になる。常に思いやりの念を持ち、それを積極的に行動に表していくことは簡単なことではない。変化の激しい社会において、他者と協調し、生活を充実させるには、人々の思いやりの精神が必要である。思いやりの連鎖がよい人間関係、よい集団を築き、やがては社会全体をよい方向へ変えていくのである。

本教材は、「座席を譲る」という生徒にとって身近な場面設定である。物語を通して、一人一人が日常生活を振り返り、生活の中にある些細な行為が思いやりから発生していることに気付かせたい。

(5) ねらい

「思いやり」を積極的に表すことの意味や影響を考え、自らの生活を振り返り、他者に対して「思いやり」の気持ちをもち、生活を充実させていこうとする態度を育てる。

(6) 展開

過程	学習活動と主たる発問	予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点
導入 (5)	1 「他人の『こころづかい』 『思いやり』を感じたり、 見たりしたことはあります か。それはどんな場面でした か。その時、あなたはど う感じましたか。」	・電車で席を譲る。 ・荷物をもつてあげる。 ・知らない人に親切にされた ことがある。 ・ありがたかった。 ・清々しい気持ちになった。	・教師が例を挙げ、生徒 から2～3の場面を引 き出す。
展開 (35)	2 教師の範読。 3 資料の内容確認。		

	<p>「教材の中に『こころづかい』『思いやり』が現れた行為はどんなものがありましたか。」</p> <p>4 「啓次（主人公）は、なぜ風鈴を買って帰ったのだと思いますか。」</p> <p>5 普段の生活を振り返り、「こころづかい」「思いやり」が現れた行為について話し合う。 （※ 個別に取り組む場合は、ワークシートの裏面にも印刷しておく。）</p> <p>6 『『こころづかい』『思いやり』が現れた行為に触れると、人はどう感じるのか。こうした行為は周囲の人々や社会にどんな影響を与えたいと思いますか。」 （※ 補助発問：「なぜこのような『こころづかい』『思いやり』が大切なのだろうか、『こころづかい』『思いやり』がなくなったら、学校や社会はどうなるだろうか。」）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席を譲る。 ・ リュックサックを預かる。 ・ 風鈴を購入する。 ・ 妻に対する謝罪や反省の気持ちがあったから。 ・ 電車の中の行為を見て、妻に対する感謝の気持ちを表した。 ・ 黒板を消す。 ・ ゴミを拾う。 ・ 用具を片付ける。 ・ こちらから声をかける。 ・ 落とし物を届ける。 ・ 時間をとって話を聞く。 ・ 挨拶をする。 ・ 人間関係が良くなる。 ・ さらに「こころづかい」「思いやり」の行為が増える。 ・ 住みやすい社会、対立のない社会になる。 ・ 穏やかになる。 ・ 笑顔が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を簡単に振り返り短い時間で終わらせる。 ・ 電車の中で見た行為が周囲の乗客や啓次の気持ちに変化をもたらしたことに気づかせる。 ・ グループに分け、各グループにワークシートを配布する。 ・ 各グループから出されたアイデアを黒板にまとめる。 ・ 校内だけではなく、社会全体に目を向けて考えるような補助発問を行い支援する。 ・ グループで意見を交換し、発表させる。
<p>終末 (10)</p>	<p>7 資料の詩を範読。 本時の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恥ずかしがらずに声をかけてみようと思った。 ・ 周りの人を「傷つける」行為についても考える必要がある。 ・ 自分の生活を見直したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学校生活や家庭生活の行動を振り返り、これからの生活をより充実させていこうとする意志が芽生えるような気持ちの変化を期待したい。



映像教材を活用した授業例

高等学校 指導案

(1) 主題名

「支え合う喜び」(社会の一員としての自覚をもつ)

(2) 教材名「支える人になりたい」(出典「千葉県道徳教育映像教材」千葉県教育委員会)

(3) 「考え、議論する道徳」の授業としての工夫

映像教材を通して、どうして人は働くのかを考えさせ、やりがいを持って働くことの大切さを気付かせる。自分のどういう部分を社会に生かしていけるか考え、他者の意見を聞くことで、自分の考えを深め、社会の一員として自覚をもち、より良い進路選択について考えさせる。

(4) 主題設定の理由

本主題は『支え合う喜び』(社会の一員としての自覚をもつ)である。高等学校段階の生徒は、社会全体が大きく変化をする中で、自らのなすべきことを自覚し、社会の一員として責任をもって主体的に生きていく態度を育成することが大切である。また、自らの将来について夢や希望を抱いたり、あるいは悩んだりしながら、将来の夢や職業について考える時期でもある。

今回の「道徳」を学ぶ時間では、「働くということは、生きるうえでどんな意味があるのか」、「社会の一員として自分がどのように役立てるのか」を考えさせたい。




本映像教材の「支える人になりたい」は、進路について考え始めた主人公の心情に寄り添いながら視聴することで、身近な立場で仕事に情熱をもつ英語教師、靴屋を通じて足元から地域を支える父親、40歳にして電車の運転士になった女性の姿を通じ、どのような志をもって仕事に取り組んでいくのかを考え、自分の経験等を生かして自分の人生を前向きに生きていく力を高めることのできる教材である。高校1年生が人と人との関わりを大切に社会の一員としての自覚を持って、生きがいのある人生を実現しようとする態度を育成したい。

(5) ねらい

働くことを通して社会の一員としての自覚をもち、主体的に生きていく態度を育成する。

(6) 展開

過程	学習活動と主たる発問	予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点
導入 (5)	1 どうして人は働くのだろうか。	・お金のため ・生活を豊かにするため ・カッコいいから。 ・人々を助けたい。 ・みんなの役に立ちたい。	・時間をかけすぎない。
展開 (35)	2 DVDを視聴する。 (18分) 3 女性運転士沢木と担任の英語の教師森川と父は自分のどういう経験や思いを生かして仕	森川:「英語は苦手だったが熱心に教えてくれた先生がいた」「英語の楽しさを知ってほしい」「まわりの人や社会	・3人の登場人物の静止画を黒板に貼り付ける。 ・DVD視聴前に展開3の発問を提示し、答えを探しながら観るように促す。 ・生徒の反応を観察する。 ・生徒に答えさせ、板書で確認する。

	<p>事をしているか。</p>	<p>のため」</p> <p>沢木:「病弱で周りに支えられていた。いつかは自分が支える側に地元の人たちに恩返しをしたい」</p> <p>父:「お客様の健康を預かる大切な仕事だと父から聞かされてきた」「喜んで履いてくれる笑顔を見るだけでうれしい」「一人でも来てくれるかぎりこの店をしっかりと守る」</p>	
<p>4</p>	<p>社会のために自分の役立てるところはどんなところだろうか。ワークシートに自分の経験、特徴を書き、それをどう社会に生かせるか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よく気がつく。 ・人のいやがることでも率先してやる。 ・コミュニケーションが苦手である。 ・アニメがすきである。 ・絵がすきである。 ・やさしい性格である。 ・不登校を経験している。 ・同じような経験をした人の手助けをする。 ・自分の描いた絵やアニメで見る人を楽しい気持ちにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く自分の性格や経験を挙げさせる。長所だけでなく短所でも良い。 ・自己否定にならないように注意する。 ・自分の性格や経験をどのように社会に役立てるか考える。 ・職業に直接つながらなくてもよい。
<p>5</p>	<p>自分の考えたことを班で発表し合う。(発表するのが無理ならワークシートを見せる。)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を肯定的に聞くように促す。 ・相手が気付いていない相手の社会に役立てられそうな特徴を気付いたら教えてあげるようにする。
<p>終末 (5)</p>	<p>6 今日学習を通して、働くということについて学んだことをワークシートに書く。</p>	<p>せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことを通して自分を成長させられる仕事に就きたい。 ・自分も誰かを支えられるような仕事に就きたい。 	

(7) 他の教育活動との関連

特別活動において、班で自分の意見を発表しあう場面では、自分とは違う意見があることを理解し、その意見を尊重していくようにする。また、自分の経験をどう社会に生かせるか考える場面では、社会生活における役割の自覚と自分の責任について考えるようにする。

(8) ワークシート

自分の経験や特徴はなんだろうか。

祖母の家に行ったとき。
祖母のマッサージをしたり、身のまわりの
お伝いをしたことがある。

どのように社会に生かせるだろうか。

介護など世話をやる仕事。

自分の経験や特徴はなんだろうか。

中学一年の頃に不登校になったことがある。
人を助ける仕事就きたいと思っている。

どのように社会に生かせるだろうか。

学校に通いたくは通えない、通いたくない人、だけに
限定せず、困っている人達を助けたら。

自分の経験や特徴はなんだろうか。

祖父に囲碁を教えてもらい、囲碁に
興味を持ち、囲碁を仕事にしようと思った。

どのように社会に生かせるだろうか。

たくさんの人に囲碁の楽しさを
知ってもらおう。

4. 今日の感想

自分の経験を生かせる職業につくことで、いろいろな人を支えられると思った。

意見や考えの変容とその共有を重視した授業としての工夫

高等学校 1 学年 指導案

(1) 主題名

「すばらしい『いのち』」（生命倫理の重みを知り，自他の生命と精神を尊重しようとする態度を養う。）

(2) 教材名 『いのち』の重み」（出典「明日への扉Ⅱ」千葉県教育委員会）

(3) 「考え，議論する道德」の授業としての工夫

本授業では，延命治療における希望の有無を，その対象を自身と他者（おもに家族）に分け，それぞれ考えさせる。同一の行為であっても治療対象によってその必要性を感じたり，一方で，ためらいや拒絶感すらも抱いたりする心理が生じる。

本指導案では以下の部分にポイントを置く。

- ①展開前段における延命治療への単純賛否から，中段の登場人物の立場での意見整理の過程において，戸惑いや自己矛盾，自身の考えが変容するさまに気付く。
- ②登場人物の立場を自身に置き換え，その自己関与度を引き上げ，主体的に意見を考え表明する。
- ③意見に対する同調・反対意見，更なる問題提起を促す“議論”の場面では，すでに①において自身の中にも様々な考え，感情があることへの気づきが生じており，本場面では多様な意見の交流＝議論の活性化が期待できる。

(4) 主題設定の理由

本主題は，「『すばらしい「いのち」』－共に「いのち」輝く社会を築く－」である。

生命の尊さを理解し尊重することは人間尊重の基盤である。かけがえのない自他の生命の尊厳を認知し，感得するには，もちろん「生」だけではなく，必ず同じ数だけの「死」があるという事実と，その重さについても理解することが必要だ。

ここでは，延命治療の現実に葛藤する主人公に共感させる。延命治療とその是非を考え，容易には結論の出ない，難しい問題であることに気付かせる中で，それだけ人間の生命や精神は尊く，かけがえのないものであることを学ぶ有意義な時間としたい。さらには，人間の生命の有限性を自覚させつつ，その生命，人生をより深めていこうとする生き方の重要性を感じ取らせたい。


生命の尊厳について考えさせることで，高校生として，さらには一人の人間としてよりよく生きていくための道徳的心情や道徳的判断力を養うよい機会となると考え本主題を設定した。


(5) ねらい

認知症が進み胃ろう（食事を直接管を使って胃に流すこと）にした祖父と看病する祖母の姿を通して，中学 3 年生の孫が抱いた「生命の尊重」と「人間の尊厳」との葛藤について共感させ，人間の生死にまつわる難しい問いに対し深く考えることで，人間の生命と精神を尊重する態度と，これからの自身の生き方を深く考える姿勢を養う。

(6) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点
導入 (7)	1 《現状認識》 「延命治療について知っていることがあるか。」	・植物状態である。 ・本人に意思が確認できない状態である。 ・社会問題である。	・ペアで話させ，その後発表させる。 ・延命治療を解説する。 ・一定の知識を与え，社会

	<ul style="list-style-type: none"> ・延命治療についての説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つらく苦しい。 ・詳しく知らない。 	<p>通念上も議論ある話題であることを共有させる。</p>
<p>展開 (35)</p>	<p>2 ≪価値追求準備≫ 「延命治療に賛成か、反対か。その理由は何か。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入 ・賛成派・反対派で席移動 ・意見とその理由について発表 ・教材を読む <p>3 ≪価値追求≫ 「あなたが祖母の立場ならば延命治療を希望するか。希望しないか。その理由は何か。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入 ※項目1～5から選択 1 自分のみ希望する 2 夫のみ希望する 3 自分と夫に希望する 4 自分と夫に希望しない 5 わからない ・グループで意見交換  <ul style="list-style-type: none"> ・全体で意見交換 	<p><賛成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望があれば。 ・命は本人のためだけのものではない。 ・回復の可能性が0ではない。 ・期限を決めればいい。 ・最後まで闘うべき。 <p><反対></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識あることが大切。 ・本人・周囲が苦痛。 ・周囲の自己満足だ。 ・経済的負担が大きい。 ・長く生きることだけが重要ではない。 <p><項目1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で希望するもの。 ・家族が望むのなら。 <p><項目2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫の命を自分の意志で絶つことはできない。 ・自分より夫の方が大切だから。 ・だが自分は意識なしで生きていたくない。 ・だが自分は家族に迷惑をかけたくない。 <p><項目3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互い少しでも一緒にいるべき。 ・命は一つしかない。 <p><項目4></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに見ていてつらい。 ・生きる“質”を大切にしたい。 ・頑張ってきたのなら悔いはない。 ・近い“死”にお金はかけられない。・少子高齢化の社会の中で迷惑になるから。 <p><項目5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことも自分では 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させる。 ・筆記用具、ワークシートを持たせたうえで移動させる。 ・意見を発表させる。 <p><留意点></p> <p>出た意見に対する反対意見や、補足的意見を促しながら自由な雰囲気でも議論させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静穏な雰囲気でも読み進める。 <p><留意点></p> <p>登場人物の葛藤や、問題の難しさ、複雑さを感じる場面とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させる。 ・机間指導でどのような意見があるかを把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー（L）を選出させる。 ・Lの進行で意見交換させる。 <p><留意点></p> <p>前の延命治療に対しての同意見者の中でも、本発問では意見に差があることに気付く場面とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入の内容だけでなく出た意見に対する考えや質

		<p>なく家族に決めてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この状況になったことがないので。 ・その時家族と決めたい。 	<p>問も自由に発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてグループの意見を発表させる。 <p><留意点></p> <p>延命治療に対する議論が2項対立ではない、難しいものであることに気づき、考え悩むことを大切にする場面とする。</p>
<p>終末 (8)</p>	<p>4 《価値の主體的自覚》</p> <p>「今日の授業で感じたもの考えたものは何か。また、これから自分にできることは何か。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入 ・感想を発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と家族のことをしっかり決めておく。 ・健康に生活できている今を大切にしたい。 ・できるだけ相手の幸せを考えたい。 ・結局、賛成反対だけでは答えられない問題。 ・家族の意見、金銭面などを総合し決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な自分の判断と理由づけも含め、授業を受け、自分の考えが深まったことや変わったことなどを記入させる。 ・指名し発表させる。再度延命治療について賛成・反対(わからない)を尋ね終わることも可能。

(7) その他の教育活動との関連

教科横断的な観点からは特に「現代社会」や「家庭総合」、「保健」などとタイアップしながら、超少子高齢化社会の日本が抱える複雑な問題の一つとして、高校生という発達段階から自身の課題として対峙させ、深く考えさせたい。これらの教科の中で、延命治療の費用や家族の苦悩などの実際を明らかにしていくことで、自身がこれからできることについて、更なる切実感をもって考える機会を与えることができるのではないだろうか。

(8) ワークシート

<p style="text-align: center;">道徳・『いのち』の重み ワークシート</p> <p style="text-align: right;">平成29年 9月26日(月)・第6課実施</p> <p>1 延命治療に賛成か、反対か、また、その理由は何か。 賛成 ① 反対 ② (※どちらかを○で囲む)</p> <p>【理由】 自分がされたら単純に嫌だから。植物状態になってまで生きたいとは思わないし、命あってこの人生はと思うから。植物状態になったら家族を見捨てるというのには、延命させようと思わないから。</p> <p>2 あなたが祖母の立場ならば延命治療を希望するか、希望しないか、またその理由は何か。</p> <p>1 自分のみ希望する ③ 夫のみ希望する 3 自分と夫に希望する 4 自分と夫に希望しない ⑤ わからない (※いずれかを○で囲む)</p> <p>【理由】 自分が年の立場になって外資系から行けば、もし自分に夫が亡く、年の人のも心も変化したら、延命治療を希望してしまふのも思わない。医師に、「延命治療をしますか?」と聞かれ、もしないことを選択したら、自分か夫と殺してしまふような気がする。</p> <p>3 今日の授業を通して感じたことや考えたこと、これから自分にできることは何か。</p> <p>今の自分でできることは、今のうちから周りの人との当たり前の日々を大切にすることだと思う。延命治療はこれから親と深く関わってその問題の下、この授業を忘れずに受け取り、生活していきたい。</p> <p style="text-align: center;">1年 組 番・氏名</p>	<p style="text-align: center;">道徳・『いのち』の重み ワークシート</p> <p style="text-align: right;">平成29年 9月27日(月)・第6課実施</p> <p>1 延命治療に賛成か、反対か、また、その理由は何か。 賛成 ① 反対 ② (※どちらかを○で囲む)</p> <p>【理由】 長生きすることは良い事だけれど、身体が大幅に弱るといって、痛がるまで行かないし、人を苦しめることになると思うから、せめて、自分が延命治療の選択をするなら、何をせざるにしようかというのを身体的にも精神的にも、楽にしようと思わないから。</p> <p>2 あなたが祖母の立場ならば延命治療を希望するか、希望しないか、またその理由は何か。</p> <p>1 自分のみ希望する 2 夫のみ希望する 3 自分と夫に希望する ④ 自分と夫に希望しない 5 わからない (※いずれかを○で囲む)</p> <p>【理由】 祖母が言った言葉に賛成で、頑張って生きてはほしいけど、十分だと思ってる。長生きするだけじゃ大切じゃないし、何も分からないうちに死んでしまふのも、辛いことだと思います。それは、家族や親戚、自分の友人なども同じことだ。受け止めてあげて、それが良い人生だと思えます。</p> <p>3 今日の授業を通して感じたことや考えたこと、これから自分にできることは何か。</p> <p>命に関するものは、とても重い課題だと思いました。人によって考え方が違ったり、最終的には個人の選択になってくるとも思います。とても考えさせられた授業でした。これからどういう選択になることがあると思うので、良く考え決断しようと思います。</p> <p style="text-align: center;">1年 組 番・氏名</p>	<p style="text-align: center;">道徳・『いのち』の重み ワークシート</p> <p style="text-align: right;">平成29年 9月28日(月)・第7課実施</p> <p>1 延命治療に賛成か、反対か、また、その理由は何か。 賛成 ① 反対 ② (※どちらかを○で囲む)</p> <p>【理由】 患者さん自身、話すことも、食べることもできない状態にあって、少しでも長くこの世にいれば、いつかその痛みの治療法が思いつくかもしれない。でも、死んでしまふ方が楽かもしれない。延命治療をして、命の延長をすることに「最善だ」と思わない、または倫理的に、少しでも長く生きると、命の延長を済ませることに「最善だ」と思わないから、反対にしよう。</p> <p>2 あなたが祖母の立場ならば延命治療を希望するか、希望しないか、またその理由は何か。</p> <p>1 自分のみ希望する 2 夫のみ希望する 3 自分と夫に希望する 4 自分と夫に希望しない ⑤ わからない (※いずれかを○で囲む)</p> <p>【理由】 自分が祖母の立場なら、夫は何もできないとしたら、その「いのち」が壊れてしまふので、一緒に命を維持してほしいから、延命治療を希望する。でも、自分の延命治療は、自分が希望するとは違う。家族が自分に代わってほしいと、延命治療をしてあげたい。それは思わないから、反対にしよう。</p> <p>3 今日の授業を通して感じたことや考えたこと、これから自分にできることは何か。</p> <p>賛成を反対する。自分も意見もよく聞きたい。考えさせられる話でした。よく聞いて、その人意見と家族の意見は、よく聞いて、それ相応に聞いてあげたい。合わないこと、それがいいと思う。よく話を聞いて、考えて、決めて、それをしてあげたいと思おう。</p> <p style="text-align: center;">1年 組 番・氏名</p>
--	---	--

交流活動を取り入れた授業の工夫

高等学校 指導案

(1) 主題名

「未来へつながる『いのち』」（伝統や文化を見つめ、より良い明日を築く）

(2) 教材名

「郷土を守る人たち」（出典「明日への扉」千葉県教育委員会）

(3) 「考え、議論する道徳」の授業としての工夫

生徒一人ひとりが自分の意見を持てるよう、生徒の日常生活に即して考えさせていく。日常生活を基に考えさせることで、直面する課題を自分のこととして受け止めさせる。その上でペアワークやグループワークを行うことで、向き合うべき現状や課題に気付かせる。また、意見の交換を通して自分の意見を見つめ直し、考えを深めさせていく。

(4) 主題設定の理由


本主題は「未来へつながる『いのち』 - 伝統や文化を見つめ、より良い明日を築く - 」である。近年、社会の変容により、地域住民間の繋がりが弱まってきている。それに伴い、地域の持っている力も弱まりつつある。地域の果たす役割は時代・社会によって変遷するものもあれば、普遍的なものもあるが、一度失われた機能を取り戻すことは容易ではない。地域性の薄い土地で生活している場合は、失われているものに気付くこともないかもしれない。そこで、現代社会における地域性を見つめさせ、地域との関わり方を含めた自己の在り方、生き方を考えさせる契機としたい。

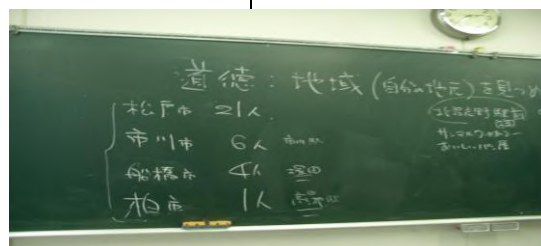
また、地域社会が守ってきた伝統・文化といったものの継承が危ぶまれ、廃れつつある現在の状況のままでは、その土地の持つ多様性が失われる恐れもある。郷土とは何か、郷土を愛する気持ちとは何かについて考えることで、地域とつながることの意義を再確認し、つながりを保ち、深めていくためには何をすべきかを深く考えさせるために本主題を設定した。

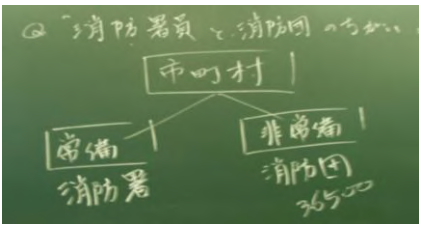

(5) ねらい


誰もが他者との関わりの中で生きているが、普段の生活の中でそのことを意識する場面はごく限られている。震災時に地域の安全を守るために奮闘した旭市消防団のエピソードを通して、地域に関わりそこに住む人々を支える生き方を学ぶ。また、災害時だけではなく日常生活において、地域の一員としてどのような意識を持って行動したら良いかについて考えさせる契機とする。

(6) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	支援及び指導上の留意点
導入 (10)	1 「どこに住んでいるか」 ・数名が全体で発表する。 2 「最寄り駅、自宅周辺＝地元とすると、地元には何があるか」 ・発問1で指名された生徒が続けて発表する。 	・〇〇市、最寄り駅名。 ・公園、商業施設、公民館、何も無い。	・最寄り駅名まで確認する。 ・それぞれの地元について考えを深めていくことを確認する。



	<p>3 「自分の『地元』について思いつくことを書きなさい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1に記入する。 ・ペアを組み、自分の地元についてお互いに紹介する。(1分間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園, 祭り, 先輩, 学校, 商業施設, クラブチームなど。 ・途中で話すことがなくなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人, 物, 行事など何でも良いことを伝える。 ・紹介しているものをどのように思っているのかも伝えるように指示する。 ・地元を思う気持ちは様々なものから生まれていることを確認させる。
<p>展開 (35)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による範読を聞く。 <p>4 「消防署員と消防団員の違いとは何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指名された生徒が答える。 <p>5 「浪川さんと林さんが消防団員を引き受けている理由を考えて書きなさい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2に記入する。 ・指名された生徒が答える。 <p>6 「消防団員の減少理由は何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指名された生徒が答える。  <p>7 「暮らしている地域とのつながりが薄くなると具体的にどのような問題が起こるか考えて書きなさい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート3に記入する。 ・指名された数名が全体で発表する。 <p>8 「地域とのつながりを保ち, 深めていくためにどのようなことができるだろうか。グループで話し合いなさい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート4についてグループで考える。 ・代表者が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員はボランティアに近い。 ・先輩から頼まれたから。 ・優しいから。 ・地元を守りたいから。 ・面倒くさいから ・他人よりも自分のために時間を使いたい人が増えたから。 ・暮らしている地域とのつながりが薄くなったから。 ・治安が悪くなる。 ・伝統行事が廃れる。 ・地域の特色が薄れる。 ・近隣住民とあいさつをする。 ・地域の行事に参加する。 ・地域の歴史について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署員と消防団員の違いに留意させる。 ・郷土を愛する心が根底にあることを確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ・遠方で仕事をする人が増えるといった社会的背景にも注目させる。 ・消防団のエピソードから離れて考えさせる。 ・ワークシート1を振り返らせる。 ・地域でお世話になった人を思い浮かべさせる。 ・地域とつながることの意義を再確認させる。 ・消防団以外の活動や, 地域を意識した活動にはどのようなものがあるか考えさせる。 ・発表者に注目させる。

<p>終末 (5)</p>	<p>9 本時の感想を記入する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる地域について尋ねられてもよくわからないので、良いところを知りたいと思うようになった。 ・何気なく暮らしていたが、多くの人の努力で成り立っていることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が地域に支えられていること、また、自分が地域を支える一員であることを再確認する。 ・地域を「知ること」「知ろうとする気持ちを持つこと」が第一歩であることを再確認する。
-------------------	--	---	---

(7) 他の教育活動との関連

特別活動においては、自己の所属する様々な集団に所属感や連帯感を持ち、集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度を養う点と関連させる。

総合的な学習の時間においては、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成していく点や自己の在り方生き方を考える力を育成していく点と関連させる。

国語においては、様々な角度から検討して自分の考えを持ち、課題解決に向けて互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を育成していく点と関連させる。

地理歴史においては、現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるということを踏まえつつ、衣食住や風習・信仰などの生活文化や価値観の変化について考察させる点と関連させる。

(8) ワークシート

3. 地域に暮らす人々のつながりが薄くなると具体的にどのような問題が起こるか考えてみよう。

災害が起きた時は「自助・共助・公助」が大切なのに共助や公助がなくなってしまう。
誰かとの「暮らしているか」などの情報がなくなってしまう。安否確認がなくなってしまう。

4. 地域とのつながりを保ち、深めていくためにどのようなことができるか考えてみよう。(グループワーク)

・近所の人に積極的にあいさつして交流を深める。
・自分の地元り場所についてよく知るために散歩をする。
・ボランティアや地域のイベントに参加をする。

3. 地域に暮らす人々のつながりが薄くなると具体的にどのような問題が起こるか考えてみよう。

・孤独死や病気の発見が遅れる
・地域間での情報が伝わりにくくなる
・話し相手が減ってしまう。閉じこもる人が増える

4. 地域とのつながりを保ち、深めていくためにどのようなことができるか考えてみよう。(グループワーク)

・地域の行事に参加する
・ボランティア活動に積極的に取り組む(地域での)
・会った際にはしっかり挨拶する

特別支援学校の取組

平成〇〇年度道徳教育全体計画

〇〇特別支援学校

関係法令	学校の教育目標	千葉県道徳教育の指針
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・特別支援学校学習指導要領 ・県教育委員会施策 	<p>『自ら学び、生きる力を高める児童生徒の育成』 やさしい心、健康な体を育む 知的好奇心に満ち、自ら学習に取り組む よりよき将来像を考え、仲間とともに自らを高め続ける</p>	<p>児童生徒が人と人、人と社会、人と自然などの豊かなふれあいの中で、自分と自分を取り巻くものとの関わりやつながりを深く意識し、自他の生命を尊重し、自らの人生をよりよく生きていけるよう、指導を行う。</p>

道徳教育の指導目標
<p>豊かな心を持ち、健康な身体を育み、教師と児童生徒および児童生徒相互の人間関係を深めるとともに、自主的・主体的に活動に取り組むことのできる児童生徒の育成を目指し、多様な体験活動を通して、道徳性を養う。</p>

各部の重点目標 及び 主な学習内容			
	小学部	中学部	高等部
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいものや自然に心を動かす豊かな感性と、児童同士、児童と教師などお互いを大切にすると、集団生活を送る上での約束を守る姿勢を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立心を培い、社会生活上の基本的なルールを守る姿勢や態度と、目標に置いてお互いに協力し助け合い、成し遂げようとする姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立心、自己抑制力、責任感や人権を尊重する心を育み、社会生活上のルールや基本的なモラルを守る姿勢や態度を育成する。
教科別の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・人や物に対して興味、関心をもつ (国語・算数) ・楽しい気持ちを表現する (音楽) ・友達と協力して楽しく活動する (体育) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉や文字、態度で表現する (国語・数学) ・情操を豊かにする (音楽・美術) ・自分について知り、きまりを守って活動する (保健体育・保健) ・自分でできることは自分でやる (職業・家庭) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文字、態度等で気持ちを友達や教師と伝え合う (国語・数学) ・仲間と協力して、音楽や調理等を楽しむ (音楽・美術) ・異性の体の変化について理解し、きまりを意識しながら活動する (保健体育・保健) ・自分の生活を見直し、社会に向けた礼儀やルールを培う (職業・家庭)
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と共に活動する (交流及び共同学習 全校集会 学部集会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して活動する (交流及び共同学習 全校集会 生徒会 委員会活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割と責任を自覚する (生徒会 委員会活動 全校集会 ホームルーム 地域あいさつ運動)
自立活動 ※「身体の動き」を除く	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りを整える (健康の保持) ・自分の得意なものに気づく (心理的な安定) (環境の把握) ・友達と仲よくする (人間関係の形成) ・いろいろな人にあいさつをする (コミュニケーション) 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活をする ・自分の得意なものに気づき、得意なことを伸ばす ・友達と仲よくし、助け合う ・言葉遣いに気をつけて相手に接する 	<ul style="list-style-type: none"> ・節度のある生活をする ・苦手なことを知り、受け止める ・異性について理解しながら、友だちと友情を深める ・礼儀の大切さを知り、親切にする。
日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の獲得 (着替え 排泄 食事 歯磨き あいさつ そうじ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 (着替え あいさつ 排泄 食事 歯磨き 係活動 そうじ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活力の向上 (あいさつ そうじ 係活動 食事 報告 連絡)
生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に活動する (学級目標を作ろう 運動会をしよう等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と力を合わせて活動する (体育祭をしよう お楽しみ会をしよう) 	
作業学習		<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守り、仲間と一緒に作業する ・自分が担当する工程に、責任を持って取り組む (紙すき、園芸、染め) (販売会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割と責任を自覚する ・販売会を通して、感謝する心をもつ (コンクリート 農耕 工芸 アロマ 縫工 木工) (校内実習 産業現場等における実習 販売会)
総合的な学習の時間		<ul style="list-style-type: none"> ・集団でのきまりを守り、礼儀正しく行動する (校外学習 修学旅行に行こう) 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決や探求活動に主体的に取り組む ・集団でのきまりを守り、礼儀正しく行動する

交流及び共同学習
<p>近隣校 (小・中・高) が連携し、交流の中で互いを知り、実践活動を通して道徳性を高める。</p>

生徒指導における道徳教育
<p>基本的生活習慣の定着を図り、社会に必要なルールやマナーを身に付ける。 教師と児童生徒同士の信頼関係や望ましい人間関係を築くための態度を養う。</p>

キャリア教育における道徳教育
<p>働くことの意味や楽しさを知り、自分の将来について考えを深められるような態度を養う。</p>

体験活動を通して考え、実際の活動に生かす実践例

特別支援学校 指導案

(1) 主題名

「支え合う喜び」(規律ある行動をとる)

内容項目名 節度、節制

(2) 教材名 「電車内のマナーについて知ろう」(自作映像教材)

(3) 「考え、議論する道徳」の授業としての工夫

普段電車を利用することが少ない生徒なので、電車内の写真や映像などを用いて、車内のイメージを持たせ、買い物学習での実際の場面と関連付けながら、意欲をもって学習を進めることができる。また、発達段階の中で自分達を登場人物として取り上げることで自分と重ねて(自我関与)、自分だったらどうする(問題解決的な学習)と普段の生活の中で自分のことを振り返ることが少ないので知的障害のある生徒には有効である。また、言葉や写真だけではなく、体験活動を取り入れることで、自分だったらどう感じるか考え発表することができ、友達の意見を聞く機会ができる。具体的な場面の様子を示して体験させることによって、マナーを守ることの大切さを実感させることができる。実感を伴った理解は、実際の生活場面へとつなげることができる。買い物学習後、よかった点を認め合う活動を通して、類似する場面での実践へとつなげていく。

(4) 主題設定の理由

本校は知的障害を主とする特別支援学校である。認知面では、簡単な言葉の指示に応じて活動に取り組むことができる生徒、写真や絵カード、具体物を見て活動を理解する生徒など実態は様々である。コミュニケーション面では、教師や友達との会話が楽しめる生徒や自分の興味があることを一方的に話すことが多い生徒などがいる。

中学校学習指導要領道徳第3章第2内容項目にある節度・節制、規則の尊重をねらいとして、「ルールやマナーを守って楽しく過ごそう」という題材を取り上げる。

1 1月下旬に予定している電車を利用した買い物学習に向けて、普段利用することの少ない電車内のマナーについて学習する。導入では、電車の写真や映像などを用いて、電車内のイメージを持つようにする。次に、マナーの悪い人や席を譲っている人などの車内のイラストを提示する。イラストは、三つのマナー(①小さい声で話す②歩く③手すりにつかまる)に焦点を当てたものを用意した。生徒や教師を登場人物にすることで、興味を持って取り組むのではないかと考える。イラストを見てマナーの良い人、悪い人を比べ、自分だったらどうするかという選択と自己決定ができるのではないかと考えている。その後、イラストの一つに焦点を当て教師と生徒がシミュレーションを行い、演じた生徒と見ていた生徒がそれぞれ感想を発表する。そして、適切な三つのマナーについて教師が手本を示し、全員が適切なマナーについて体験する。体験の際、より一層イメージが持てるように映像やベンチなどで疑似車内を作ったり、車内アナウンスを流したりするなどの工夫をした。全員が三つのマナーを体験したり、身近に感じたりすることで、マナーを守り他の利用者を思いやる気持ちを育てる時間にしたい。最後に、今日学んだことをマナーカードにして、本時以降の日常生活の中で図るとともに当日のしおりに挟むことで電車に乗るときに振り返ることができるようにする。本単元を通して、電車に乗る上でのマナーについて知り、きまりを守ることの大切さに関心を持ち、自分から進んで行動するようになってほしいと願い本単元を設定した。


(5) ねらい



車内のイラストを見て、良いマナーや悪いマナーに気づいたり、シミュレーションから車内のマナーを知ったりすることでマナーについて関心をもつことができる。また、今までの内容を振り返り、マナーカードを作ることで校外学習当日の電車内のマナーについて意識することができる。

(6) 評価の場面と方法

- ①展開の場面で、マナーを体験したり、見たりしている様子から評価する。
- ②マナーカードを作る場面で、その内容や選んだ表情カードから評価する
- ③年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で把握する。

(7) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (10)	1 11月下旬の校外学習について知る。 ○電車に乗ったことがある人いますか。 ・電車の写真や車内の様子を撮影した映像を観る。	<ul style="list-style-type: none"> ・乗ったことある。 ・電車好き。 ・乗ったことない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰と乗ったのか。」や「どこに行ったのか。」など具体的な場面を答えられるように質問する。 ・イメージが持てるように東葉高速線などの身近な電車の写真を用意する。
展開 (35)	1 ストーリーを見ながら話し合う よいマナー ① 席を譲っている様子 悪いマナー ①大声で話している様子 ②走る様子 ③手すりを持たず、人や物にぶつかる様子 ○ (一つ一つの場面に対して) この場面では、みんなならどうしますか。 ・シミュレーションをする。 ・教師が行う、マナーが悪い人の例を代表の生徒が隣で体験する。 ・それ以外の生徒は見守る。 ①大声で話している様子 ・一人一人感想を発表する。 ②走る様子 ・一人一人感想を発表する。 ③手すりを持たず、人や物にぶつ	 <ul style="list-style-type: none"> ・小さい声で話す。 ・走るとあぶない。 ・倒れるからあぶない。 ・わからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が注目できるように、拡大したイラストを用意する。 ・イラストに注目しやすいように、イラストの顔写真を生徒や教師の写真などにして分かりやすくする。 ・わかりやすくするために一つ一つのシミュレーションの前に何を行うのか発表したり、一つ一つの場面が注目できるイラストを用意したりする。 ・体験をした中で、自分はどう感じたか考えさせることで、どうするのがよいのか気付かせる。 ・全体の前で発表することを恥ずかがる生徒には、表情カードを用意する。 ・生徒が「特に感じない。」「わ

	<p>かる様子</p> <p>○体験して、どう思いましたか。</p>  <p>・適切なマナーを体験する。</p> <p>①大声で話さず、小声で話す ②走らないで歩く ②手すりにつかまる</p> <p>○マナーカードを作りました。</p> <p>・マナーカードのプリントに書いたり、表情シールを貼ったりする。</p>	<p>・大きい声でうるさかった。 ・走るとぶつかった。 ・歩く方があぶなくな い。</p> <p>・周りにいる人の迷惑にならない。 ・手すりにつかまると倒れない。</p> 	<p>からない。」などの発言があったときには、周囲の教師や友達に意見を求め、正しいマナーを聞いたり、教えたりする。</p> <p>・適切な声の大きさを、声のものさしカードを使い、教師が手本を示すようにする。</p> <p>★よいマナーを知ることができたか。 (発言・表情)</p> <p>・書くことが難しい生徒には、表情カードを用意する。複数の表情カードを用意しておき、振り返りながら貼るようにする。</p> <p>★電車の中ではマナーをもあって過ごそうとする意欲を持つことができたか。 (マナーカード・発言・表情)</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>○本時の振り返りをする。</p> <p>・今日の学習で学んだことを写真や資料で振り返る。</p>	<p>・走るとあぶないから気をつける。 ・さっきやったことだ。</p>	<p>・校外学習で電車に乗るときのマナーを話し、車内のマナーを守ることが他者への思いやりにつながることにも気付かせるようにする。</p>

(8) 他の教育活動との関連

本校の道徳科の授業は一つ一つの題材を1時間の授業で展開している。毎回の道徳の授業と学校生活や各教科と関連づけながら行っている。今回の授業は生活単元学習の単元につながる形の授業として行っていく。

(9) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・(マナーカードを持ちながら)ぶつかる危険から歩きます。
- ・小さい声で話します。

(保護者の感想)

- ・テレビの画像や音声も本物なので分かりやすかった。実際に先生と一緒に生徒も実演したので、学習と練習ができて良かった。
- ・マナーの再現にモニターもあり臨場感溢れる練習であった。
- ・電車内の再現の映像や音に夢中になっている生徒もいたので、全員が練習できるようにすると良かった。
- ・今後もいろいろなマナーや約束などを授業で取り上げてほしい。(人の手を出さない、人を押さない。等